

◆優良賞◆

ぼくの想いよ、届け

豊田小学校 五年

玉村 銀時

ぼくのお父さんは日勤と夜勤があるお仕事をしています。ぼくが小学5年生になった今でも、学校から帰ってくると、お父さんが家にいるのかいないのかお母さんに確認してしまいます。

日勤の時は、ぼくが学校へ行くより前に出て行きます。夜勤の時に残業してくると家に帰ってくるのは朝の7時過ぎになるので、丁度ぼくが学校へ行く準備をしている時です。

お父さんは帰ってきてすぐにお風呂に入ってご飯を食べるとすぐしん室へ行ってしまう。なのでほとんど会話しません。夜、ねずにお仕事をするのは本当につらいと言っていました。みんなの起きている時間になて、みんながねている時には、お父さんは、起きて仕事をしている。多分、ぼくには絶対に真似出来ないです。

「お父さんの自まん、その①」

ゲームの攻りやくが上手い。どんなゲームでもすぐマスターしてしまう。

「お父さんの自まん、その②」

夜勤から帰って来てねずに、ぼくが高熱の時病院へ連れて行ってくれた。本当に辛かったので、うれしかった。

「お父さんの自まん、その③」

ぼくはよくお母さんに怒られているけど、お母さんにもぼくと弟にもいつ

もやさしい。

「お父さんの自まん、その④」

休みの時には思いっきり遊んでくれる。旅行にも連れて行ってくれるし、ぼくのおたん生日に、デイズニーへ連れて行ってくれる。

普段は照れくさくて、お父さんに感謝の言葉を言えないのですが、ぼくのおつちよこちよいな所も怒らず見守ってくれるし、仕事から帰ってきて、どんなにつかれていてもぼくの話をと中で後回ししたりせず、最後まで聞いてくれる。たん生日でもないのに、ぼくがテストの点で良い点を取ったり、習い事などで成果を見せると、ほしい物を買ってくれます。

そんな大好きなお父さんですが、夜勤をやっている人の平均じゅ命が10年ほどみじかくなる話を聞いて、ぼくは、少しこわくなった。

どうかいつまでも元気でいてほしいので、最近ぼくはお父さんの足をマッサージしてあげています。ぼくの指圧は絶みようらしいです。すこしやっただけでも足が楽になるそうです。はるかしくてあまりお父さんに、感謝の言葉を伝えられていませんが、お母さんからすると、「言葉がなくてもぼくがお父さんのことが大好きなのが分かるよ」って言っていました。川の字になって、いつも3人でゲームして転がっているのを目にするのがお母さんの日常らしいです。(笑)

今度からはちゃんと自分の言葉で伝えてみよう。

「お父さんいつもありがとう、長生きしてね。」と。